

産土

今野美伶

忙しない毎日に疲れ果て、
満員電車に嫌々乗り込む。
聞こえるはずもないのに、
懐かしいお囃子が耳をくすぐる。
一度も帰っていない故郷の、
遠い夜祭の音信か……。

日高見川の山奥の
さびれた社の大舞台
鬼の踊りに神は舞い
笛が鳴る鳴る可惜夜に

ひゆるりひゆるり
涼風と鳴る神の笛
稲穂を渡り船渡り
おじさま
御蚕様の羽を吹き過ぎる

おれさま
どろどろ轟く雷と
響く太鼓は地を鳴らし
舞い踊る笛は龍の声
さやけき産子の歌う声

ひゆるりひゆるり
天と地の声はとこしえに